夢とのみふしみの里のいな枕むすびしのちのなさけだになし

〔夫木和歌抄三十二枕〕久安百首こすげの枕　清輔朝臣

はつかりのこすげの枕つくりおけるかひこそなけれいもしまさねば

〔夫木和歌集三十二枕〕家集旅歌　源仲正

秋風に心みだるゝ旅ね哉ゆひとめられぬかやまくらして

石清水三首歌合旅宿風　清印道清

かや枕かりそめぶしのさびしきによはのあらしぞともと成ける

〔雍州府志七土産〕竹具　建仁寺町大佛前、亦以竹造諸品物、略中竹枕略中等物無不有、

〔萬葉集二〕柿本朝臣人麿妻死之後泣血哀慟作歌二首幷短歌略中

家來而、吾家乎見者、玉床之、外向來、妹木枕、

〔萬葉集十一〕寄物陳思

妹戀、吾哭涕、敷妙、木枕通而、袖副所沾、

結紐解日遠、敷細、吾木枕、羅生來、

〔後奈良院御撰何曾〕喜撰が歌はせんもなく歌もなし、秋の月の曉の雲にあへるがごとし、　木まくら

〔信綱記〕一信綱公松平比及十二三歲、與大河内休心翁、常同寢七之間之室、翁示之以諸般之心操、公欲目覺、臥以三角木枕、故應其動靜速矣、

〔萬葉集十一〕寄物陳思

夕去、床重不去、黃楊枕、射然汝、主待固、

〔新撰六帖五〕まくら　家良